

低学年の道徳授業

はたけの 先生



加藤 宣行

1. 資料について

本資料は、『ゆたかな こころ』2年生版(光文書院)に収録されている、主に「尊敬・感謝」という内容項目を学習するために書かれた資料である。一見単純な内容であるが、川上さんがなぜはたけの先生をしているのか、そのためにどのような努力をしているのか、苦労を乗り越えてはたけの先生を続けているものにある心は何か、等を考えることで、価値の構造化ができる資料である。2ページ目に、自分たちがお世話になっている方々のことを考えられるワークシート的なものがついている。もちろんこれを使っても構わないが、私はこれがなくても充分子どもたちは自分自身の身の回りの方々をイメージしながら学習に参加できると考えている。実際、授業では子どもたちの方から「○○さんも同じだね」等の発言が出てきた。

2. 内容項目・展開について

小学校第1学年及び第2学年

2-(4) 日ごろ世話になっている人々に感謝する。

感謝の気持ちが高まるためには、お世話になっている人たちがどんなことをどのような思いでしてくださっているかを、子どもたち自身が気づき、実感するように展開を工夫する必要がある。そしてその様な人たちに共通することを考えさせることで、子どもたち自身の身の回りにいらっしゃる様々な人たちに対する理解が深まり、感謝の念が自ずと生まれてこよう。

3. 本時のポイント

今回は実践の中から次の3点を明らかにしたい。
①資料を読む観点を与える導入
②自分自身のことを重ねて考える発問

③子どもたちの板書への参加

4. 授業の実際

- (1) 資料名 「はたけの 先生」
『ゆたかな こころ』(光文書院)
- (2) 内容項目 2-(4) 尊敬・感謝
- (3) 本時の展開

(『 』は教師 「 」は子ども)
①資料を読む観点を与える導入
『「ありがとう」を言いたい人にはどんな人がいますか』
「家族」「友だち」
「電車をきれいにしている人」「お医者さん」
「人以外だけど、家の猫」
(ここで子どもたちの発言をカテゴライズした)
『家族、お仕事頑張っている人、人以外の3つが出ましたね。他にもいるかもしれないね。お話を読んで考えよう』
『川上さんにもありがとうがあるかな』
「ある」

『それは、お仕事頑張ってくれているからかな』
「ちがう」
『川上さんがしてくれることはどんなことですか』
「植え方を教えてあげている」
「<大丈夫だよ>って声をかけてくれている」
「草取りをしてくれている」
『草取りは、みんながいるときだけしてくれているのかな』
「みんながいないときもしてくれている」

『そうか、みんながいないときも準備や後片づけをしてくれているんだね』
(川上さんがいつも頑張ってくれている様子を時系列で考えさせることで、資料に書いていないここまで気づかせることができた)

②自分自身のことを重ねて考える発問

『川上さんが頑張ろうと思っているものにあるものは何ですか』
(川上さんの努力に充分気づかせた上で、本質を問う発問をした)
「子どもたちのために何かをしたい」
「楽しんでもらいたい」
「みんなにおいしいって思ってほしい」
「さつまいものことをちゃんと教えてあげたい」
「先生、そういうことなら保谷のおじさんもそうだね」

(「保谷のおじさん」というのは、保谷にある本校の農園を管理してくださっているおじさんのことで、子どもたちは折あるごとに収穫や野外活動でお世話になっている。本質をとらえることで、子どもたちは自ずと自分の身の回りの人々に目を向け始めるのである)

『なるほど、川上さんのように、仕事でなくても頑張ってくれている人がいるのですね。』

③子どもたちの板書への参加

『もっと他にもいそうだね。思いついた人、黒板に出て書いてごらん』



(ほとんどの子どもたちが黒板に出て書いていた。多かったのは「先生」だった。ご丁寧に「かとう先生」と書いてくれる子も多く、なんだかうれしい気持ちになった)

『こういう人もいるよ』

(教師が用意した用務主事さんの写真を黒板に貼る)

『ああ、○○さんだ』

『みんなの身の回りにも、お世話になっている人がたくさんいることに気がつきましたね。そういう人たちに何と言いたいですか』

『いつも私たちのためにありがとう』

『そうだね、今日の勉強で「ありがとう」の意味がふくらみましたね。そういうありがとうが言える人っていいですね』

(4) 児童の反応

おせわになっている人はぼくたちのみのまわりにいて、その人たちは、みんなを幸せにしたいと思いながら町をきれいにしたり、おいしいご飯を作ったりしてくれるんだなと思います。そんな人たちにかんしゃしたいです。(男子)

川上さんはみんなのためにしている。楽しんでもらいたいからだと思う。私のマンションのかんり人さん、わたしがいつもあいさつをすると「えらいね」と言ってくれるのでうれしいです。ありがとうございます。ほかにも学校をそうじしてくれるようむ主事のMさんも、みんなが気持ちよくすごせるようにきれいにしているので、ありがとうございます。(女子)

5. 授業後の考察

「そういう人ならもっといる」と言って、わっと黒板に出て書き始める子どもたちを見ていて、「ああ、やっぱり本質は転移するんだな」と思った。きちんと気づき、実感すれば、子どもたちは自ずと自分自身を重ねて考え始めるのである。『さあ、自分たちの身の回りにはどんな人がいるかな』などと改めて問い合わせなくとも、ごく自然に意識は流れ始める。そのような自然の流れの中で1時間が構成できたら、筋の通った、子どもたちとつくる授業ができるのではないだろうか。



展開
上が行為・下が本質



終末